

琴陵中ブロック授業研究 スタンド

Concept

学びの主体である児童生徒にとって、学びたくなる、追究してみたいくなるような課題をつくり、思考の流れを大切に授業展開を通して、児童生徒にとって、“必然性”のある授業を創る。

授業構想シート【日常化】

学びのプロセス【授業研究】

5年1組 算数科 10%引きのねだんを求め、わかりやすく説明しよう 「割合」

授業の概要

すでに、百分率を学習した子供たち…
 日頃よく見聞きする〇〇%引き…「いったい何円になるの??」
 などと不思議な思いのこぼれや新たな課題が生まれる…
 「ああ、わかったよー〇〇円だよー」
 ここで、子供たちの学びは終わらない。それを、関係図や線分図等を駆使しながら、わかりやすく説明するのが今日のミッションと
 して、子供たちは、見事、〇〇%引きのねだんを求め、わかりやすく伝える伝道師になれるか…

学びたくなるような課題づくり

課題形成

“身に付く力”を増やす指導の柱

児童生徒にとって “必然性” のある授業づくり

“〇〇%引きのねだんがいかになるかを、関係図や線分図を使ってわかりやすく説明する活動において、個人思考を大切にしつつ、意見交換をさせることにより、考えを広げたり、深めたりする。
 【自学力・探究力】

学びのプロセス **児童生徒の思考の流れを大切に授業展開**

5年 音楽科 題材 思いを表現に生かそう

“身に付く力”を増やす指導の柱

主体的に探究しながら思いが盛り上がり過ぎていく“しかけ”を“し”、それを自分たちの活動に生かす活動を通して、学びに必然性を生み出し、主体的に学び、学びを広げたり、深めたりする。【自学力・探究力】
 音楽や表現に取り組み中で、それぞれのパートが効果的に使われることから、どれもかけがえのないパートであることを理解する活動を通して、自分自身がかけがえのない存在であることに気づき、自分らしさを大切にしようとする。【自己表現力】

学びのプロセス

学びのプロセス	学びの姿	単元を貫く“問い”	子供の気づき
1. 目的の共有と課題設定	「既習中」を振り返る。	単元を貫く“問い”	気づき・発見・理解 ・疑問・疑問
2. 単元を貫く“問い”	単元を貫く“問い”	単元を貫く“問い”	・気づき・発見・理解 ・疑問・疑問
3. 新たな“問い”	新たな“問い”	単元を貫く“問い”	・気づき・発見・理解 ・疑問・疑問
4. 新たな“問い”	新たな“問い”	単元を貫く“問い”	・気づき・発見・理解 ・疑問・疑問
5. 新たな“問い”	新たな“問い”	単元を貫く“問い”	・気づき・発見・理解 ・疑問・疑問

子供の思考の流れを大切に授業展開 → “必然性”のある学び

授業参観の視点

授業のゴールイメージを児童生徒の姿で描く

- ◆授業を通して、児童生徒のどのような姿を目指すか・・・
- ◆そのために、どのような手立てをうつか、(発問・手立て)

授業参観

授業参観の視点に基づいた“みとり”

- ◆目指す児童生徒の姿が見られたか?
 - ◆授業者と児童生徒の間に思考のズレがなかったか?
- ※結果、方法論に終始するのではなく、効果やズレの要因をみとる
 ～何が効果的だったのか・なぜ、ズレたのか～

事後検討会

みとった内容について話し合う

- ◆授業者の思い、願い、ねらいに基づいて検討し今後の展望へつなげる
- ※効果的であった場面とその要因
 ※ズレがあった場面とその要因

授業研究は、教職員にとっての“学びのプロセス”